

令和9年度（2027年度） 佐賀大学経済学部改組計画について

R7.5.26 佐賀大学定例記者会見

※名称・組織体制等については検討段階のものであり、すべて未確定

佐賀大学ビジョン2030（2020年4月策定）

- 3つのあるべき姿
- 教育のアクション：時代のニーズに対応した分野横断型の学位プログラムの構築

大学の使命として、本学の有する境界領域や学際領域に機動的に対応

- 特定の分野に留まらない幅広い知識と多様な視点と共に課題解決に導くためのスキルや能力を修得した人材の養成
- 学生の興味や関心に応じて、幅広い教養と高い専門性を涵養

2030年に向けて佐賀大学が目指すことービジョン2030【R2.4.1策定】ー

志、挑戦、そして未来へ

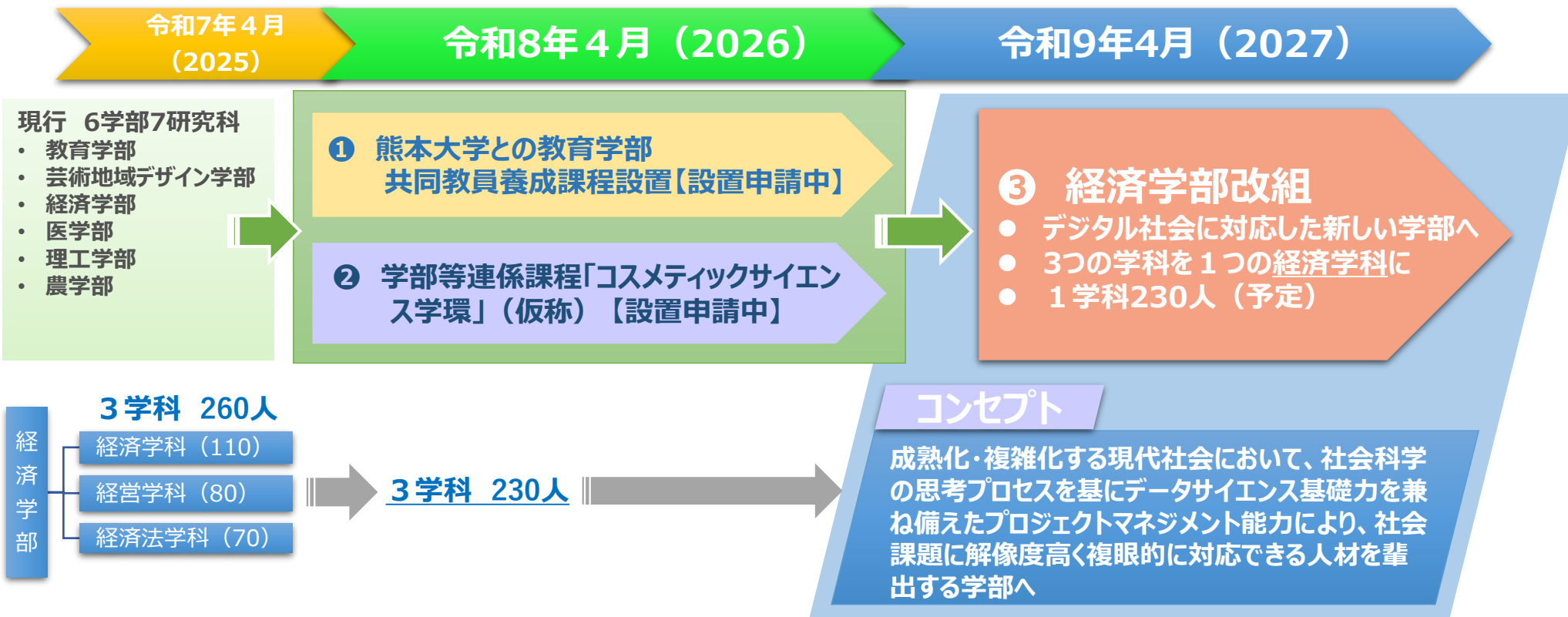
ここから10年先、第4次産業革命やSociety5.0といった新しい時代がやってくる時、はたして社会はどうなっているのでしょうか？私たちは、そんな予測困難な時代が続く中で、社会や地域のために、みんなのために、佐賀大学がどういった役割を果たしていけるかを考えました。来るべき2030年を新たな希望の時代にするために、佐賀に住む皆さんと佐賀大学みんなが「志」を持って挑戦し、ともに未来へと発展し続ける大学を目指します。

佐賀大学が目指す2030年の姿



大学教育に対する社会的・地域的ニーズに対応

- 地域が求める大学教育に対する社会的ニーズの変遷
- 2040年に向けた高等教育の将来像としてのSociety 5.0の実現
デジタル技術の活用と産学連携の強化を通じて、学生が実社会で活躍できるスキルを身につけることを目指す
- デジタル化の進展と知識集約型社会への移行
デジタル技術の進化により、情報の収集、分析、共有が容易になり、知識集約型社会への移行が加速



■ 背景

- 2040年に向けた高等教育の将来像としてのSociety 5.0の実現
デジタル技術の活用と産学連携の強化を通じて、学生が実社会で活躍できるスキルを身につけることを目指す
- デジタル化の進展と知識集約型社会への移行
デジタル技術の進化により、情報の収集、分析、共有が容易になり、知識集約型社会への移行が加速

■ 目的

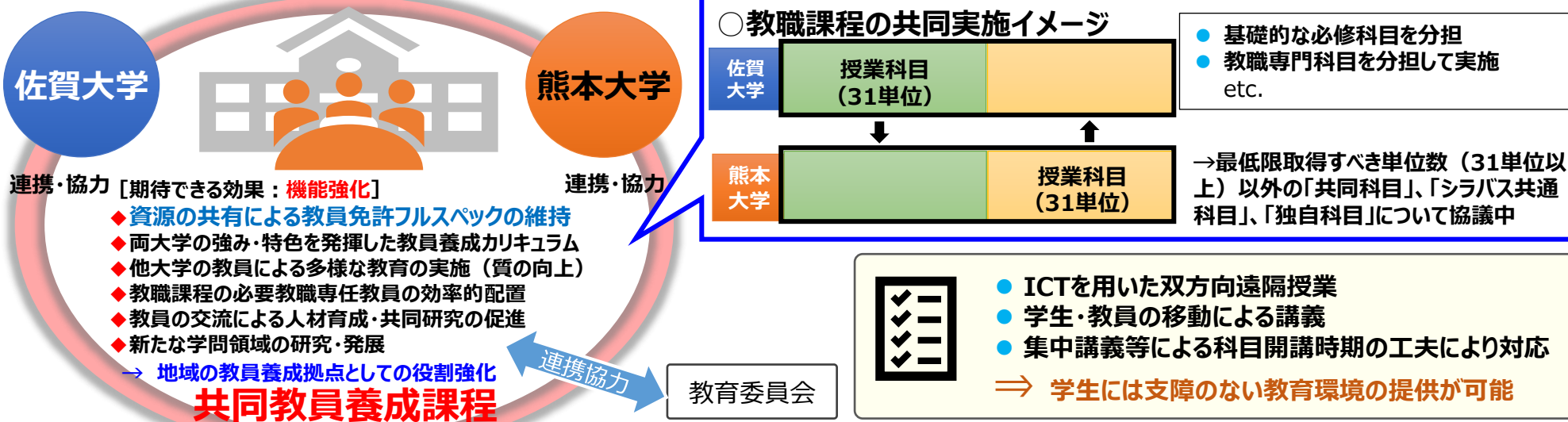
- 経済・経営・法理論を基礎学力として、デジタル社会に対応した人材を育成
- 社会課題の解決に向け、データサイエンスを駆使し、戦略・政策を立案・実行できるプロジェクトマネジメント人材を育成

背景

- 令和元年6月18日「国立大学改革方針」（文部科学省）
国立大学の適正な規模：教員養成系大学・学部の高高度化と、他大学との連携・集約
- 令和4年12月19日（中央教育審議会答申）
『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について
～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質高い教職員集団の形成～
- 教員就職率の向上、組織体制の見直し
教委と連携した地域課題解決に対応したカリキュラムの構築等、定員の見直し・大学間連携・統合に係る検討等

共同教育課程の概要

- ・構成大学は、一の大学が開設する授業科目を、その他の大学の教育課程の一部とみなして、同一内容の教育課程を編成
- ・学生はそれぞれの構成大学において共同教育課程の開設した授業科目の単位をそれぞれ31単位以上取得
- ・共同学科等の課程を修了した学生に構成大学による連名の学位（共同学位）を授与

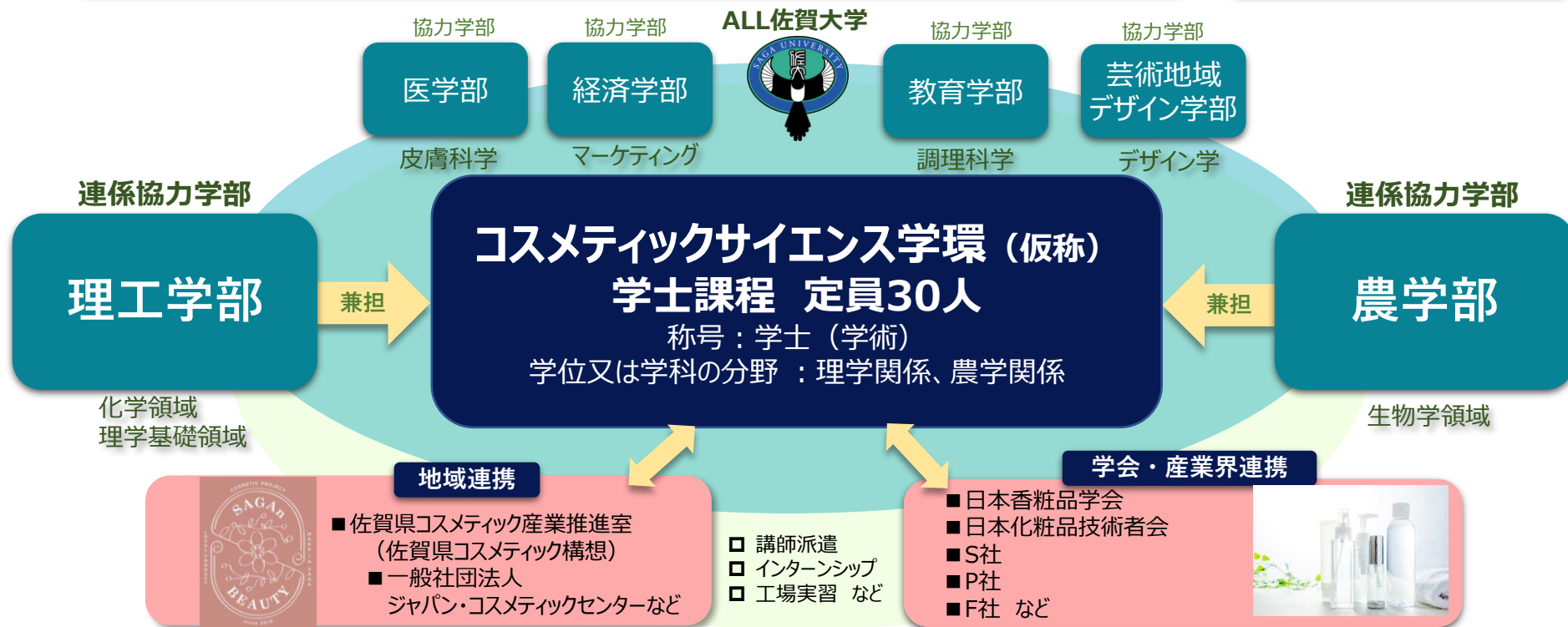


設置目的

- 総合大学の知的資源と研究成果を活かした、**化学・生物学などの横断的な学び**を基盤とした分野の設置
- **佐賀県コスメティック構想**など地域産業の発展・成長に貢献
- 世界の化粧品市場において優位にある日本の**化粧品産業の成長**に貢献できる人材育成
- 化粧品産業に関心の高い女子学生の受け皿として、**理系女性の活躍・拡大に寄与**

※国内外の設置状況（大学院含む）

- 国内：私立 3
- 海外：米国(7)イギリス(7)カナダ(2)フランス(1)ドイツ(2)イタリア(4)シンガポール(1)スペイン(4)インド、スリランカ、パキスタン、タイ、韓国などにも設置あり

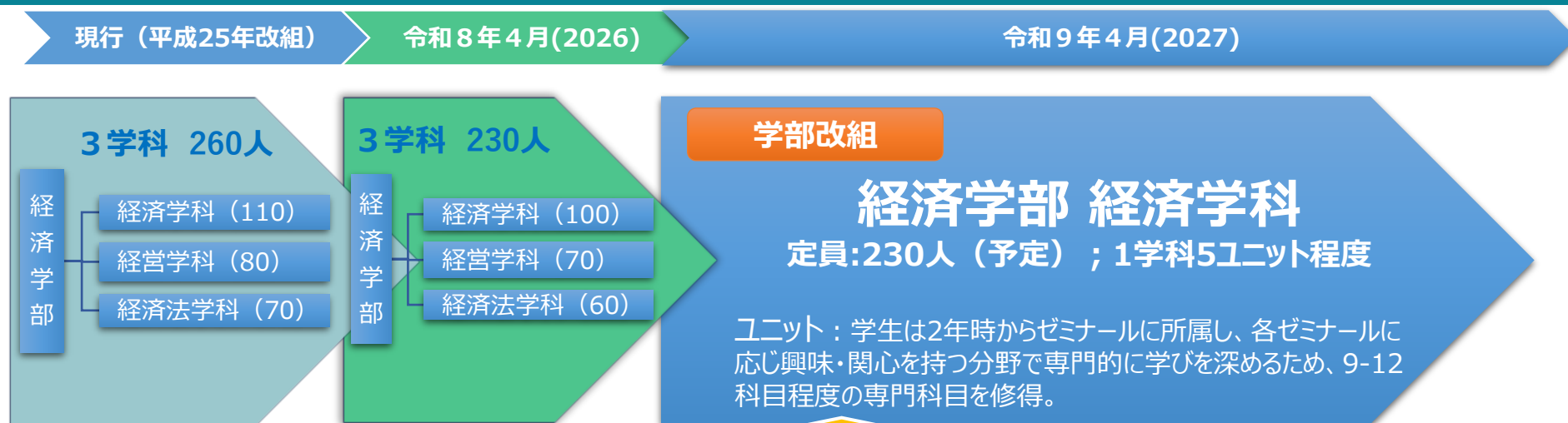


養成する人材像

- 化粧品分野の包括的な専門性を修得し、**化粧品の開発・製造に携わる技術者**
- 科学的根拠を基にした化学物質の**安全管理・適正利用**ができる専門人材
- コスメティックサイエンス分野において、**学際的な素養**を持ち、将来**イノベーションを興せる人材**

予想される進路

- 化粧品産業
- 食料品・飲料産業
- 化学工業
- 公務員
- 大学院進学



コンセプト

成熟化・複雑化する現代社会において、社会科学の思考プロセスを基にデータサイエンス基礎力を兼ね備えたプロジェクトマネジメント能力により、社会課題に**解像度高く複眼的**に対応できる人材を輩出する学部へ

■ 背景

- **2040年に向けた高等教育の将来像としてのSociety 5.0の実現**
[デジタル技術の活用と産学連携の強化を通じて、学生が実社会で活躍できるスキルを身につけることを目指す]
- **デジタル化の進展と知識集約型社会への移行**
[デジタル技術の進化により、情報の収集、分析、共有が容易になり、知識集約型社会への移行が加速]

■ 目的

- 経済・経営・法理論を基礎学力として、デジタル社会に対応した人材育成のため「経済学部」を改組
- 社会課題の解決に向け、データサイエンスを駆使し、戦略・政策を立案・実行できるプロジェクトマネジメント人材の育成

デジタル革命により、データや情報が社会の中心的な価値を持つようになり、物理的資源や労働力に依存する従来の経済モデルから、知識や情報を活用する新経済モデルへと移行

物理的資源や労働力
に依存する経済モデル

知識や情報を活用
する新経済モデルへ



■ 企業等において必要とされている人材

○企業採用担当者との面談等では、以下のような人材を求めている企業が増えている。

- ・ ユーザと技術者、社内営業と技術者、アライアンス先と技術者、および技術者同士をつなげ、1 から企画し最終的に納品までできる**ブリッジ人材**
- ・ （営業職では）デジタル技術利活用の提案ができ、かつ自社内技術者とのコミュニケーションが可能な**ブリッジ人材**
- ・ 地方公務員においても、専門試験型の採用から民間と同様な人物重視の選考に変わってきており、コミュニケーション能力に加えプロジェクトマネジメント能力の必要性が高まっている。

○ステークホルダーに対して新卒文系人材に求める能力を調査したところ、従来型の「コミュニケーション能力」に加え、「プロジェクトマネジメント能力」や「ブリッジ能力」を求めている企業が増えてきている。

社会の変化に対応して、新しい能力を持った人材の輩出が必要

1年次

2年次

3年次

4年次

社会人

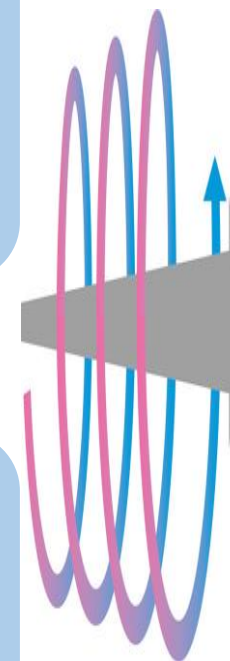
①プロジェクトデザイン力

- ・ 課題発見・仮説設定・データ分析の枠組を構築できる力

プロジェクトマネジメント志向の
経済・経営系データ分析科目

②データドリブン力

- ・ データ分析結果を科学的に解釈し、戦略的・政策的な立案に生かすことができる力



③
プロジェクト
マネジメント
人材

- 社会科学の思考プロセスを基に、データサイエンスの基礎力を着実に習得しながら、
①社会課題を見つけ、どう解決するか考える力、②集めたデータを分析し、正しく判断する力、③チームで協力し計画を立て、やり遂げる力 を持つ人材養成

学部内教育

■ 既存教育の『融合』による社会科学教育

全学部生にマクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、経済数学、経営学、マーケティング、簿記会計、法学などの社会科学の基本的な知識を教育し、社会課題を複眼的に把握する能力を養う

- **社会課題演習の実践**

社会課題の解決策を提案する能力を養う

- **社会経済の理解**

経済活動が社会に与える影響や、社会経済の構造を理解し、持続可能な経済発展を目指す

■ プロジェクトマネジメント能力を養う教育の導入

課題発見・仮説設定・データ分析の枠組の構築ができる能力を養う

データ分析結果を科学的に解釈し、戦略的・政策的な立案に生かすことができる能力を養う

学外のリソース

■ 企業等との連携による実践的教育

野村証券：「証券市場分析」

弁護士会：「市民と法」

経営者協会：「現代の経営」

毎年度
開講

「社会課題演習」（1年次専門必修科目）

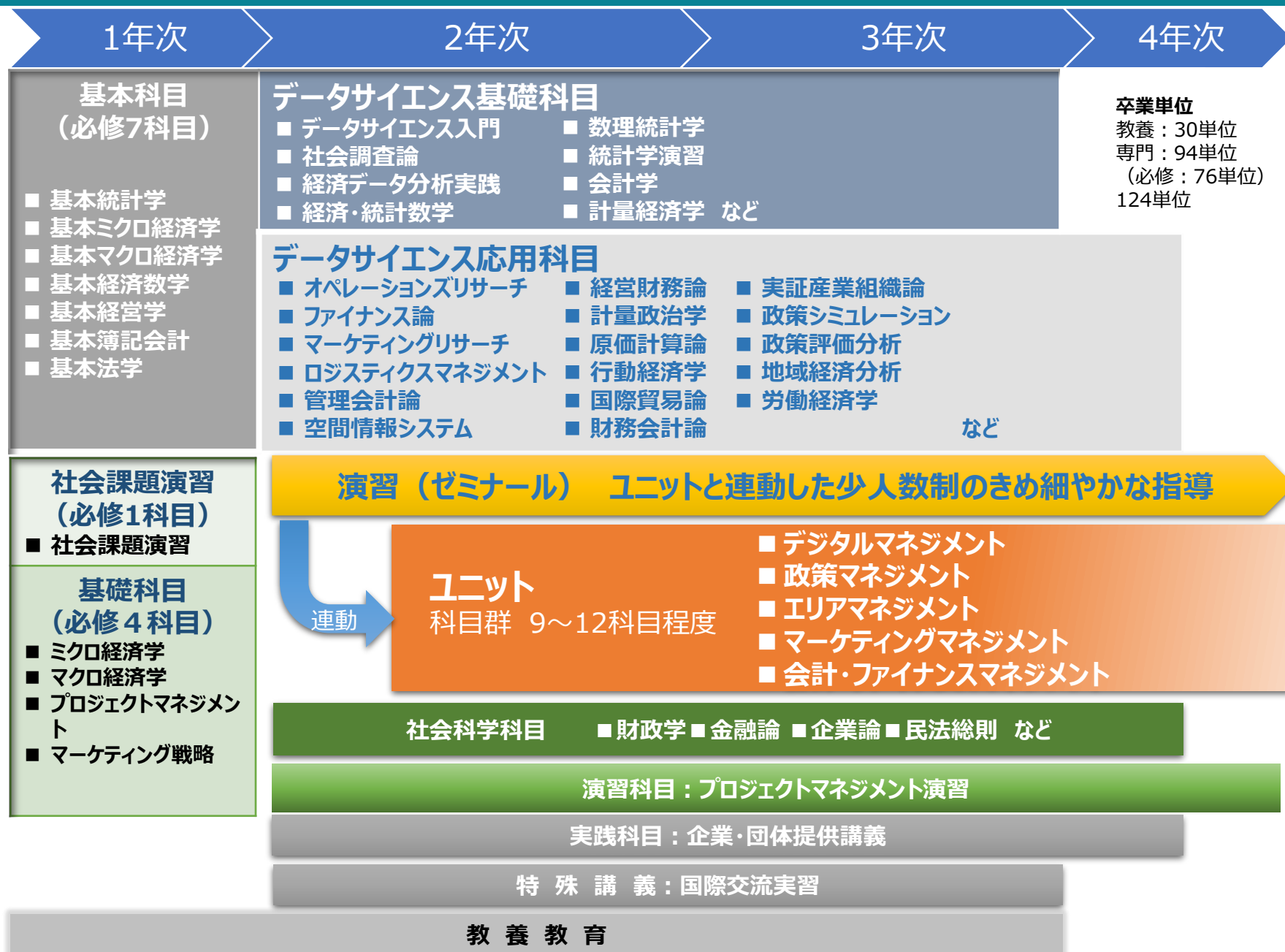
* 民間企業・団体、行政機関から現代の社会課題のリアルを学ぶ

⇒ 九州電力、日本政策投資銀行、竹下製菓、シャボン玉石けんなど

⇒ 日本銀行佐賀事務所、福岡財務支局、佐賀市、唐津市など

佐賀県統計分析課との共催で統計セミナーを実施

新たにプロジェクトマネジメント演習において九州経済連合会やNTT西日本など参画予定



プロジェクトマネジメント人材（ブリッジ人材）の排出
社会課題に対応する調査企画・分析・解釈能力を持った人材

デジタルマネジメント

✓データサイエンスをツールに社会課題を可視化して分析し、解決策を提示できる力

政策マネジメント

✓グローバル化、雇用問題、食料問題などマクロ経済分析の対象となる社会課題をデータを用いて理解・分析し、解決策を提示できる力

エリアマネジメント

✓人口減少下のまちづくりの諸課題をデータを用いて理解・分析し、解決策を提示できる力

マーケティングマネジメント

✓企業経営・マーケティングや起業などの課題をデータを用いて理解・分析し、解決策を提示できる力

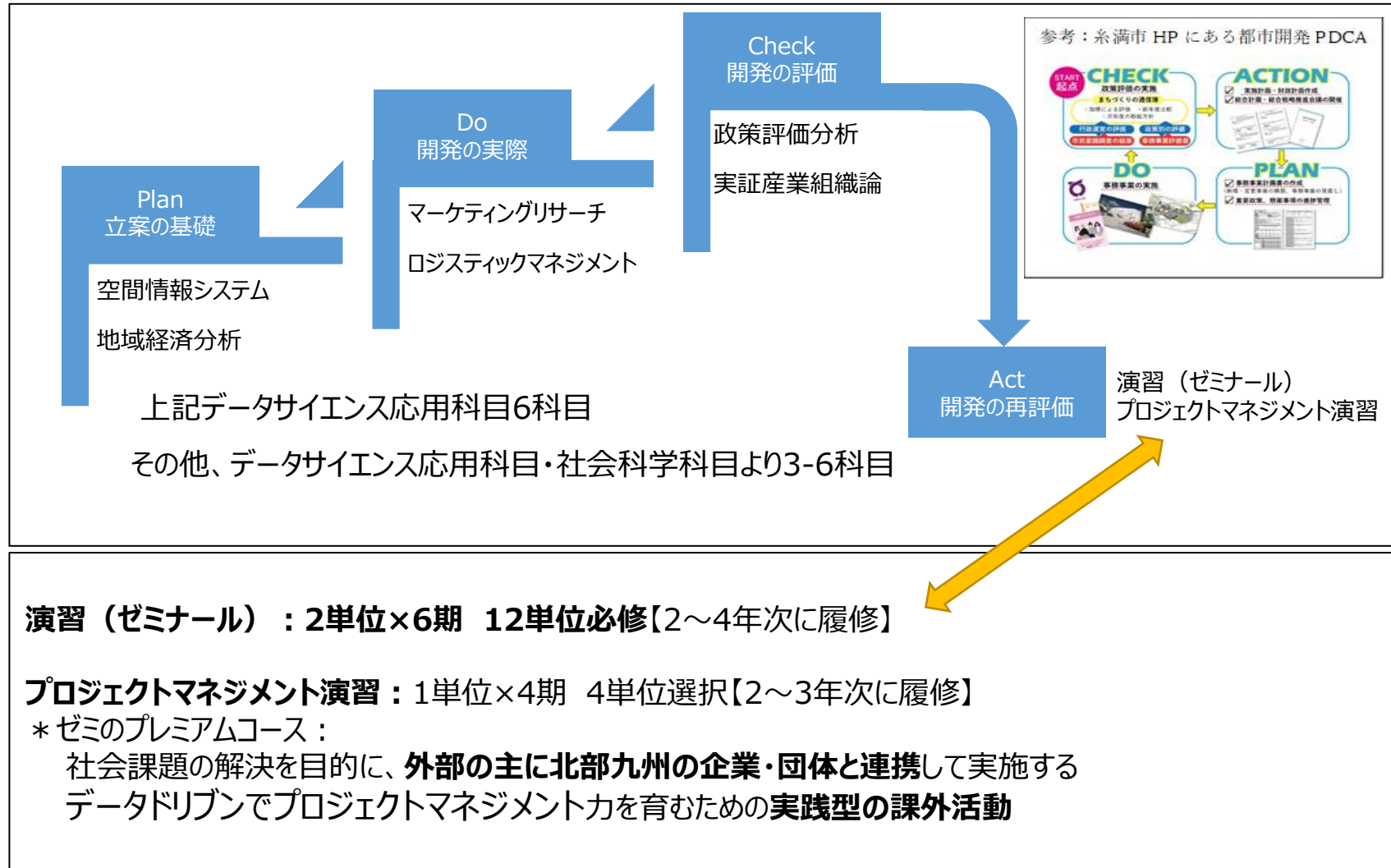
会計・ファイナンスマネジメント

✓社会課題を会計やファイナンスなどの知識を用い理解・分析し、解決策を提示できる力



- ゼミと連動し卒業までに一つ以上のユニットを習得
- 各ユニットは、データサイエンス応用科目のそれぞれの指定科目及び社会科学科目より9-12科目（調整中）を履修
- 卒業までに複数ユニットの修得も可能とする（各ユニット毎に修了認定（オープンバッジを活用したマイクロレデンシャル））

データサイエンスを駆使して「エリアマネジメント」を学ぶ



■ 一般選抜（前期日程）

- 大学入学共通テストの理科を追加
- 配点割合（個別試験の割合増）の変更

		教科名	改組前	改組後
大学入学 共通テスト		外国語	200	100
		国語	200	100
		数学	200	100
		地理歴史、 公民	100	50
		理科	—	25
		情報	30	25
合 計			730	400
個別試験		外国語 (英語)	100	200
総 計 (総計に対する個別試験の得点割合)			830 (12.0%)	600 (33.3%)

■ 総合型選抜Ⅱ

- 総合型選抜Ⅱの入試区分を新設
- 大学入学共通テスト+書類審査

		教科名	改組後
大学入学 共通テスト		外国語	200
		国語	200
		数学	200
		地理歴史、 公民	(100) *
		理科	(100) *
		情報	(100) *
合 計			700
書類審査			30
総計 (個別試験なし)			730

*「地理歴史、公民」・「理科」・「情報」のうち、最も高得点だった科目の点数を採用する。

各入試選抜の募集人員については、今後公表